

富士山頂で祈りを捧げる

御来迎と御来光

御来迎：阿弥陀如来の出現

一定の条件のもと、昇る朝日を背にして富士山頂を望むと、かなたの霧の中に虹色の輝きを放つ巨大な人型が現れます。観測者自身の影が拡大されるこの現象は、ドイツのブロッケン山でよく発生することにちなんで名付けられた「ブロッケン現象」です。富士講の巡礼者はこれを「御来迎」、つまり、阿弥陀如来の出現と呼びました。

通常の文脈では、御来迎という言葉は阿弥陀如来が信者を死後に浄土に連れて行くため迎えに来ることを示唆しました。富士山では、この言葉の意味は微妙に異なりました。富士山の山頂は別世界であり、訪れた人を霊的に生まれ変わらせる神聖な領域とされていました。霧の中に輝く阿弥陀如来の姿を目にするのは、その体験を肯定する非常に感動的でめでたいことでした。

御来光：光の到来

今でも条件が合えば富士山でブロッケン現象を見ることができますが、運よく目にすることができたとしても登山者はそれを純粋な自然現象と理解するでしょう。現在の登山者は大抵、御来迎よりも東に太陽が姿を表す際の「御来光」を体験することにより関心があります。日の出や日没に太陽が富士山頂の真後ろにぴったり重なる「ダイヤモンド富士」と同様、御来光の人気は、この象徴的な山の無限大のスケールが現代の登山者を魅了し続けていることを示しています。